

朝礼 校長講話（9月21日）

学校祭。本当なら文化の部、体育の部と一気に皆さんのパワーを爆発させてほしかったのですが、しばらく雨が続く予報ですのでやむなく延期しました。「やりたかったなあ」という気持ちの人がほとんどだと思いますが、小雨が降っていたり足元が悪かったりする中で、皆さんがベストのパフォーマンスを出せなかったりけがををしたりしたらいけないので、そうしました。今年の夏は、猛暑で始まり、西日本豪雨、大阪や北海道の地震と、いつになく大きな自然災害があり、自然の前ではいかに人間は無力であるかを思い知らされました。

今日はそんな自然災害の話をしたしたいと思います。それは、毎年、この時期にこの場所で皆さんに「忘れてはいけない日がある」と伝えていることです。それは伊勢湾台風です。1959年、昭和34年9月26日にこの地方を襲った伊勢湾台風は多くの被害をもたらしました。亡くなった方も大勢います。26日にはその方々の冥福を祈る意味で、校庭の国旗掲揚塔に半旗を掲げたいと思います。広島の人が原爆が投下された8月6日を忘れないように、東北の人が3月11日の大きな地震を忘れないように、私たちはこの弥富に生きている者として9月26日を忘れないでおきたいと思います。

しかし、忘れない理由は、なにも、多くの被害や犠牲があったからだけではありません。今月4日。始業式の翌日に台風21号が接近し学校が休校になりました。かなりこのあたりに近いコースを通る予報だったので、皆さんもニュースなどを見て心配をしていたことと思います。しかし、先生は、そうでもありませんでした。「過信」を叱られるかもしれませんが、先生は心の中のどこかに、「伊勢湾台風で被害を受けた弥富は、その後、強い堤防を作り、水をいち早く吐き出すポンプをたくさん作ったから、ちょっとやそとの災害ではびくともしない」という思いがあります。そして、各地で大きな被害があった中、弥富ではそこまで大きな被害はなかったように思います。

話は自然災害からそれますが、栄南小学区にトラックがたくさん通る国道23号線が走っています。そして、そこには二つの地下道があります。狐地と稲荷を結ぶ地下道、実はそれは昭和42年、1967年6月にできたものです。きっかけはそこで弥富中学校の3年生の子がトラックにはねられ亡くなったからです。ちゃんと横断歩道を自転車を引いて渡っていたのに…。そんなことがあってはならないと、PTAや学校・地域の人たちが市、当時は町ですが、そこにかかけあい地下道をつくったそうです。

桜小学区でも1984年、昭和59年に死亡事故がありました。桜小学校の

正門からまっすぐ国道1号線に出たところ、ビルとビルの間を抜けたところの横断歩道を、昔は信号がなく、そこを手を挙げて渡っていた小学1年生の子がダンプカーにはねられ亡くなったのです。その事故の後、そこには今ある押しボタン式の信号がつけました。

自然災害や交通事故、どちらも大きな犠牲を生み出すものです。できることにならないほうがいいに決まっています。しかし、万が一、それに見舞われたとき、弥富の人たちは嘆き悲しむだけではなく、二度とそんなことが起きないように立ち上がりました。それがびくともしない堤防であり、地下道であり、信号機です。皆さん自身にも、毎日、よいこともあれば嫌なこともあると思います。そのたびごとに喜んだり悲しんだり、時には「もう嫌だ!」と投げやりになったりすることもあると思います。でも、皆さんの心の中には、体の中には、つらいことから立ち上がるDNA、立ち上がってより強くなるDNAがあるように思います、弥富の子だから。

天候のせいでもまだできない学校祭体育の部。それをマイナス面だけでとらえるのではなく、「二日しかなかったはずの学校祭を長く楽しめる」ぐらいの気持ちの切り替えをし、よりパワーアップして臨んでほしいと思います。